

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「感謝 人を思い、人と笑い、人と泣き、人に寄り添う」をホームの理念に掲げ、今年で4年目を迎える。		利用者の人生に寄り添い、ご家族と職員と共にその方の余生を支えていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	機会あるごとに理念を提示し、日々実践に向け取り組んでいる。		実践出来ているかを分析し、具体化していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議において、理念の公表と説明を行った。		今後、新しく関わる方にも、随時提示説明していく。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	玄関先にての日光浴中や、散歩途中に隣近所の方に挨拶したり、声を掛けれるようにしている。		今後も続ける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	廃品回収、夏祭りの地域活動に参加している。また、独居老人の会の食事会やバスハイクに参加する利用者もいる。		今後も、恒例行事として参加する。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて民生員の方から地域の高齢者についての話題もあがるが、実践する事として取り上げた事はない。		地域の高齢者も視野に入れ、地域貢献出来る事柄を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	具体的に調査員の方から指摘された事は意識し取り組んでいる(床そうじやトイレの表示)。		全体会議等にて評価を検討し、課題を具体化し改善に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を、事業所内にて取り上げた事はない。		運営推進会議の議題を検討する余地もあり、今後サービス向上につながるようにしていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に、運営推進会議や伝達等以外での行き来はない。		サービス向上につながるような行き来する機会を作っていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の勉強会を行うことなく、管理者や職員の理解度は低い。退去した利用者で制度を活用した方はいた。		事業所内にて勉強会等を行い、理解度を高め、随時必要と思われる方には提案していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社研修等において学ぶ場を設けられている。その後事業所内にて報告、確認し合い、日々意識して防止に努めている。		こまかく項目ごとに事例をあげ、より理解し防止に努めるようにする。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書等を読み上げる途中途中で不安・疑問等を聞き対応している。		今後も続ける。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見等は随時伺い、日々のサービスに反映させている。		外部者へも表せる機会を設けたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話、または個別にご家族宅を訪問し報告・相談を行っている。		今年4月からは、定期的お便り作成をしていないので、今後復活させたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見等は伺えているが、参加者が限られている。		今後は全ご家族へ案内し、会議へ参加される機会を作っていく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議と月一回のケアカンファの機会を設け、職員から意見を聞き反映するようにしている。		運営に関する知識を増やせる機会を設け、職員の運営意識を高めていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に分かっている事項に関しては、シフト作成時から考慮しているが、それ以外にもその都度シフト調整する事の了承を得、実施している。		職員の増員を行い、スムーズに調整出来る環境作りを行う。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での職員の移動時に混乱等が起きないように、日頃から別ユニットの職員も利用者に声掛けするようにしている。時に応じて、利用者も別ユニットを訪問している。		離職時には、離職の挨拶等は極力控え動揺されない配慮をする。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集・採用に関しては、一切経験等も問わないようにしている。職員の社会参加等は理解し、シフト作成にあたっては希望を考慮している。</p>		<p>今後も続けていく。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>本社研修等において学ぶ場を設けられている。その後事業所内にて報告、確認し合っている。特に活動までは行っていない。</p>		<p>今後、事業所内に於いても学び、活動出来る機会を作るように努める。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職制に応じ社内研修を行っているが、全職員が公平に受けられていない。社外研修に於いては個人に任せている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各事業所の希望により、協議会等の参加は認められているが、活動等の実践は事業所に任せている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>PCメールの目安箱設置。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格手当や資格取得祝い金の設定。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居されるまでの間、ご本人よりご家族との話す機会が多く、本人自身の意見は聞けていない。		入居時のご本人の状態により聞けない場合が多が、状況に合わせて聴く機会をつくる。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際してはご家族からの相談から始まり、ご家族の気持ちを受け止めることで入居となっている。		今後も続ける。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紹介のケアマネージャーやソーシャルワーカーの方を含め、入居について検討をしている。		グループホームへの入居だけが、ご本人やご家族の支援ではないことを念頭におき、対応していく。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐに入居生活を始めるのではなく、デイサービスのように家からの通いを行うケースもある。		状況等に合わせ対応していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごし、利用者の状態に合わせて出来ることは一緒に行い、感謝し教を請い、お互いに支え合っていると言う関係を築いている。		今後も続ける。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の人生において家族の存在がどれ程貴重なものか伝え、職員と共にご本人を支えれる関係を築いている。可能な限りご家族がご本人を支えることを支援している。(外出や入浴等の声掛け等)		今後も続ける。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族双方からこれまでの関係の情報収集を行い、状況をみながら近況を伝え、よりよい関係が築けるように支援している。		今後も続ける。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に関しみなし地域からの入居者も多く、馴染みの人や場所との関係を保つことは難しい。		ご家族の協力を得、可能な限り関係が途切れないように支援に努める。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みの関係が維持出来るように、食卓への誘導を行ったり、カラオケ等のレクリエーションを行う中で関係を深めるように支援している。		それぞれの気持ちを考慮しながら今後も続ける。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切る事はしていないが、継続的関わりを求める利用者やご家族がいない。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に利用者やご家族に希望を伺っている。困難な場合も、ご家族から情報収集を行い、本人本位で考え検討している。		今後も続ける。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当のケアマネージャーやソーシャルワーカーの方等から情報収集を行い、把握に努めている。		今後も続ける。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日2回の申し送り、管理日誌や介護記録・受診記録等の記録、状況変化時の報告にて現状を把握し、関わる職員の意見を含めた上で総合的に把握している。		今後も続ける。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のケアカンファにて、日々のより良い暮らしの為の課題等を検討し、利用者やご家族の希望と職員の意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。		今後も続ける。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎の見直しに加え、状況・状態の変化等に合わせ随時ケアカンファにて話し合い、その都度作成している。		今後も続ける。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度個別の介護記録に記録し、または管理日誌に申し送りを記入し、情報の共有を図り、介護計画の見直しをしている。		今後も続ける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての機能を活かし支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出の際や事業所内での演芸会等行う際は民生委員やボランティアに、徘徊等の問題対処時は警察に、避難訓練や防火に際しては消防に協力を仰ぎ支援している。		今後も続ける。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの為、他の介護サービスの利用は不可能である。		利用者にとってのより良い暮らしに欠かせないものであるならば、ご家族・行政・必要機関に相談し、サービス利用出来るよう支援していきたい。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者個人個人の相談での包括支援センターとの関わりはない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の本来のかかりつけ医を継続し、状況や家族等の希望により事業所の提携医に受診するようにしている。		今後も続ける。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を特定出来ておらず、現状の主治医に相談している。		今後、認知症専門医との関係は不可欠と感じている現状である。より良い専門医の特定を早急に行うようにしている。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	H18.8月からH19.6月まで医療連携加算により週一回の訪問看護を受けていたが現在はなく、日常の健康管理や医療活用は主治医にて行っている。		今後、特別指示書の利用等に関わる看護職との協働支援は行えると考えます。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、主治医に入院期間を確認の上、速やかにご家族に今後の希望を伺い、病院との打ち合わせをしている。		ご家族に医療と介護の違いや関係を説明し、現状と今後に起こりうるリスクを伝え、理解し納得した上での早期退院に対応していく。往診可能な提携医の指示を受ける事の承諾も得る。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況により、話し合いの進み具合に差がある。また、主治医との話しもまだらである。		個別の状況に合わせ、極力早めに話し合う機会を作っていく。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と協力し、特別指示書を活用し対応している。ご家族・かかりつけ医には「出来ること・出来ないこと」を伝えている。		全利用者・ご家族への説明と話し合いを行い、今後の変化に備えての準備を行い、主治医との検討を行う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居が決まった際は、十分な情報交換を行っている。		今後も続ける。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の勉強会等を行い、プライバシーの保護に注意をはらっている。		今後も続ける。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度、利用者の意向を確認し支援している。		今後も続ける。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況を確認しながら、その日の活動の提案をし希望は確認している。起床・食事・排泄・入浴・就寝に関しては、時間を見計らいながら声掛け誘導している。		必ず、声掛け時には利用者の希望を確認する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の身体状況やご家族の都合を考慮し、訪問理美容を利用している。		今後も続けるが、その人らしいスタイルを維持できるように努める。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況や出来る力、好みに合わせて、職員と一緒にやっている。		今後も続ける。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては、状況等を検討し提供している。		今後も、利用者の身体への影響を考慮した上で日常的に楽しめるように支援していく。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンや習慣が把握出来ておらず、支援方法の確立が出来ていない為、利用者が気持ちよく排泄出来ているとは限らない。		職員の排泄に対する知識と技術の向上と、利用者一人一人にあった支援方法の確立に努める。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望より、身体状況等を配慮しタイミングを見計らいながら声掛け誘導している。声掛け時には、希望を聞いている。		今後も続ける。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて、場所移動等を行い安眠・休息を支援している。		今後も続ける。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の状況に合わせて、料理の準備や掃除・裁縫の役割や、カラオケや塗り絵・散歩等の気晴らしを出来るように声掛け支援している。		今後も続ける。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持しているお金についてのみ個人管理としているが、あえて使えるような機会は作っていない。また、利用者によって、所持している人といない人がいる。事業所としては、立て替え金制度を活用している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮し、出来る限り支援している。ただし、徒歩か2kmの社用車使用にて行くことが出来る範囲。		ご家族の協力を得、範囲を広げるよう努めたい。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	最低、年2回は事業所内定期清掃があり、大型バスを利用し、外出している。また、個別の外出はご家族の協力を得ている。		季節行事や大切な日に応じた個別の外出が出来るように、ご家族に協力得られるよう努めていく。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族の許可のもと電話使用の支援をしている。手紙を受け取ることは出来るが、返信することは難しい。		可能な限り支援する。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族以外の訪問については、事前又はその都度ご家族に確認の上ご本人と過ごして頂いている。		年々ご家族以外の方の訪問が減っている。ご家族の協力を得、昔馴染みの方との繋がりを続けて頂くよう努める。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社研修等においても拘束事項を学び、やむ負えない限りを除き拘束を行わない。やむ負えない場合はご家族の同意書を取り、行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけない。		今後も日中は施錠しない。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士、常に声掛けあいリビング内等での見守り、居室の定期巡回をおこなっている。		環境整備を常に行いながら、リビング等及び居室内での所在・様子・安全を確認する。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人状態に合わせた環境整備を行い、危険防止に取り組んでいる。		利用者一人一人の状態に合わせ、環境整備を行うと共に、ヒヤリハット及びリスク報告書にて職員同士情報を共有し、危険の再発防止に取り組む。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬に関しては、誤薬撲滅4則を毎朝礼時に唱和し、意識を高め、服薬支援においては二人で飲み込むまでを確認している。		他の項目についても知識を高め、事故防止に取り組んでいきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受けるようになっているが、今現在、未受講スタッフも三分の一程いるので、受講計画中である。		定期的に自主的勉強会や応急手当の練習等行える機会を作っていく、緊急時に適切な対応が出来るようになる。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は行っているが、地震・災害時に関しては想定した事がない。		火災以外での避難方法も訓練し、日々地域の方の協力を得られるように働きかける。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者のリスクについては、随時ご家族に相談し、対応策を検討し実行している。急を有する場合は事後承諾を頂いている。		利用者の予測出来る状態変化等も話し合い、前もって
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝礼時には夜勤者から日勤者へ、夕方には日勤者から夜勤者へ、日に2回の健康チェックを行い申し送りを行っている。また、日々管理日誌等の記録を使用して職員間での情報の共有を行っている。		日々の観察力を磨き、早期発見に役立てていきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は閲覧出来るようにはしているものの、目的や副作用等の理解にはスタッフ間にて差が見受けられる。		薬の知識を高め、服薬の支援と症状の変化の確認が出来るように努める。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘のコントロールは下剤にて行っている。		利用者の身体状況を踏まえ、水分摂取量や運動等の働きかけを工夫し、便秘の予防や改善に取り組む。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後のみ支援出来ている。		口腔ケアが利用者に与える影響等を理解し、毎食後に支援出来るように取り組みたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日1000ccを目安にし、こまめに働きかけている。食事に関しては、個人差が大きく一人一人の状態にあった支援が全員出来ているわけではない。		栄養や食事の知識を高め、一日1000cc以上の水分摂取量とバランスのとれた食事を取ってもらえるよう、献立・調理法等を工夫し支援していく。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	本社からの指示に従い、実行している。マニュアルあり。		本社マニュアルに従い実行する。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	本社からの指示に従い、実行している。マニュアルあり。キッチン点検表を使いチェックを行っている。		旬の食材を取り入れた献立を作成し、新鮮で安全な食材を使用した食事を提供する。マニュアルに従い、台所・調理用具等の衛生管理を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内外にベンチ等の椅子を配置したり、スロープの完備、手すりを付け安心して出入りできるように配慮している。花や壁飾り、置物等で親しみやすさを作っている。		より季節感が感じられるように工夫したい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、また物音により早く気付けるように音への配慮は出来にくい、反射しにくい照明を使い光への配慮は行っている。異食予防の為、置物等を選び生活感や季節感に乏しくなっている。		異食に結びつかない物の中から、生活感や季節感がより感じられる工夫をしていきたい。

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・玄関・ウッドデッキ等ソファを置き、独りでも、複数でも過ごせるようにしている。		和室の活用が出来るように、工夫する。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの利用者が居間で過ごす為、居室は寝室としての空間となっている。使い慣れた寝具と身体機能を考慮したベットやマットを使用してもらっている。		家族の面会時に、居室にてゆっくりと過ごせる事も考慮した空間づくりをしていく。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日は極力窓を開け、空気入れ替え、気温の調整を行っている。利用者の体調や状況に合わせて冷暖房の調節はこまめに行っている。		臭いに関して、臭いが定着しないように環境整備に心がける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	年々身体機能低下が見られる為、一人一人の状況に合わせた居室内の工夫を行っている。		可能な限り、利用者の自立が可能な工夫をしていく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力に合わせた居室内の工夫をしている。		可能な限り、利用者の自立が可能な工夫をしていく。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階ウッドデッキにて日光浴をしたり、喫煙場所を設け、花壇の野菜や花を鑑賞出来るようにしている。玄関先にもベンチを置き、外の景色を楽しみながら過ごせるようにしている。		花壇の手入れ等を行い、より生活の場として活用し、隣近所の方々との触れ合いの場としていきたい。

番号	項目	取り組みの成果 ↓ (該当する番号欄に 印をつけること)	
サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホーム コムスのほほえみ太宰府（われもこう）

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
		○	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない